

リソナ経済フラッシュ

(まだ割安？の日本株)

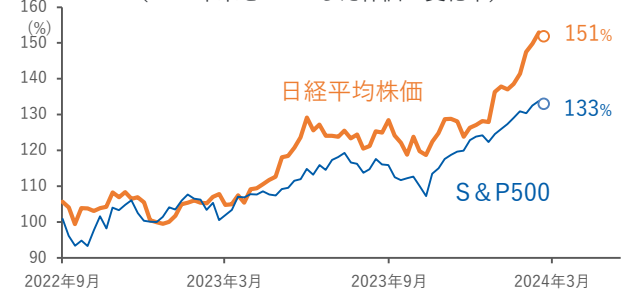
 2024年 3月 8日
 リソナHD 市場企画部
 担当：苅谷

1 日本株は大幅に上昇

昨年来、日本株は大幅な上昇相場に入った。振り返ってみると、4月に米著名投資家のバフェット氏の日本株の投資割合引上げ表明をはじめ、東証のPBR改善要請、記録的な円安、2024年の新NISA制度の開始も好感されて、史上最高値を更新するに至った。

足元の日本株は、米国の主要銘柄を含むS&P500等の世界的な株価指数を大きく上回るパフォーマンスを記録（右図）。「この上昇相場がいつまで続くのか」という不安以上に「持たざるリスク」が意識され、高値圏で推移している。

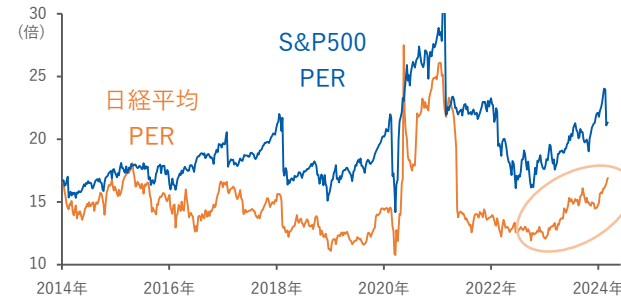
【日本株は米国株を上回って上昇】
 (2022年末を100とした株価の変化率)



2 米株との比較ではまだ“割安さ”あり？

株価の上昇に伴い、日本株の“割安さ”も修正されてきた。“1株当たりの利益の何倍まで株価が買われているか”を示すPER（株価収益率）は、徐々に上昇している（右図）。過去10年間の平均である15倍を超え「割安さが薄れてきたのではないか」との指摘も聞こえ始めているが、PERが21倍の米国のS&P500に比較すると、依然として“割安さ”が残る状況。

【日本株のPERは米株と比較するとまだ低位】



～日米株のPER～

まだ割安	16倍	21倍
日経平均		S&P500

3 ドル建ての日経平均株価にも“割安さ”？

日本の株価市場の売買代金の6割から7割程度を占める海外投資家が重視する「ドル建て」の日経平均株価を見てみると、2021年2月につけた最高値からはまだ6%程度低い水準に位置している（右図）。PERが相対的に高く、史上最高値の更新を続ける米株に比べれば、ドル建てで投資する海外投資家からみると、相対的にはまだ「割安さ」が残る状況といえる。

【ドル建て日経平均は最高値に達していない】



$$\frac{\text{日経平均 } 40,000\text{円}}{\text{ドル/円 } 150\text{円}} = \text{ドル建て日経平均 } 266\text{ドル}$$

出所:Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることがあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。